

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	→ 6	6	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↗ 164	149	ヘルパンギーナ	↗ 12	8
咽頭結膜熱	↗ 24	8	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↗ 15	5
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘ 64	70	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↘ 210	218	流行性角結膜炎(はやり目)	↘ 4	7
水痘	↗ 75	50	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↗ 68	43	無菌性髄膜炎	↘ 1	4
伝染性紅斑(りんご病)	↗ 4	0	マイコプラズマ肺炎	↗ 4	3
突発性発しん	→ 46	41	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→ 0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- RSウイルス感染症
- 水痘

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

手足口病：人吉

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	
熊本市保健所	1	55	2	23	30	19	4	4	15		3	1		3				1		
山鹿保健所		3	1		20	2							*	*						
菊池保健所		18	9	11	53	8	23		12		1	4								
阿蘇保健所				1	1								*	*						
御船保健所		1			19	1							*	*						
八代保健所		8	1	3	25	11	4		6		1	1								
水俣保健所		14		2					1				*	*						
人吉保健所	3	9	1	19	9	3	21		2			7	*	*				2		
有明保健所			8	1	28	11	7		5			2		1		1				
宇城保健所	2	54	1	3	15	13	7		2		2		*	*						
天草保健所		2	1	1	10	7	2		3		5							1		
計	6	164	24	64	210	75	68	4	46	0	12	15	0	4	0	1	4	0	4	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	6						1						2		1							
小児科定点年齢	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	164	26	31	66	25	11	2	3														
咽頭結膜熱	24		3	10	4	2	2		1	2												
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	64		1	4	2	5	10	11	6	3	6	4	10	1	1							
感染性胃腸炎	210	3	16	24	18	22	15	18	17	12	10	8	30	5	12							
水痘	75	2	4	22	14	10	10	7	4			1	1									
手足口病	68	2	2	16	25	12	7	3	1													
伝染性紅斑	4		1	1		2																
突発性発しん	46	1	23	19	3																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	12		2	6	2	1			1													
流行性耳下腺炎	15			1	1	2	3	3	2			2			1							
眼科定点年齢区分	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	4				1								1		1				1			
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	1							1														
マイコプラズマ肺炎	4				1		1		1		1											
クラミジア肺炎	0																					
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0																					

RSウイルス感染症の報告数が2週連続で増加しています。年齢別では1歳以下のお子さんの報告数が全体の75%を占めています。RSウイルス感染症の症状は軽症の感冒様症状から重症の細気管支炎や肺炎などの症状に至るまで様々ですが、生後6か月以内でもっとも重症化するとされており、入院事例のピークは2~5か月齢という報告があります。生後4週未満ではRSウイルス感染症の頻度は低いのですが、この年齢で罹患した際には突然死につながる無呼吸が起きやすいことも報告されており、注意が必要です。RSウイルス感染症は、感染した人の咳やくしゃみのしぶきからうつる場合(飛沫感染)と、感染した人との濃厚接触や手指・ドアノブ等を介して感染する場合(接触感染)があります。RSウイルス感染症に対しては特効薬がなく、治療は安静や点滴などの対処療法のみですので、予防が大切になります。引き続き、小さなお子さんのいらっしゃるご家庭や、基礎疾患をお持ちのお子さんに接する方々は以下の予防対策をしっかり行ってください。

RSウイルス感染症から赤ちゃんを守るために～手洗いと咳エチケット～

感染予防対策

- ・流行期には赤ちゃんを人ごみに連れて行かない。
- ・咳やくしゃみなどの症状のある方は咳エチケット(マスク着用、咳をするときは口や鼻を覆うなど)を守る。
- ・外出後の手洗いをきちんと行う。
- ・子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはアルコールや塩素系の消毒剤で消毒する。

